

令和4年度  
事業報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日



森のようちえん  
(滝野自然学園)



公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会



SYAA

公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会

# 目次

I. 令和4年度 総括	1
II. 経営理念	2
III. 事業報告	
1. 事業実施状況	
2. 施設管理運営	
3. 事業実施報告概要（事業区分）	3
4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況	5
5. 各課（各施設）事業実施報告	
(1) こども事業課・こども育成課（指定管理事業：児童会館109館） （受託事業：ミニ児童会館90館）	16
(2) 千歳事業所（受託事業：千歳市児童館・学童クラブ10館・18箇所）	18
(3) 千歳事業所（指定管理事業：千歳市青少年会館）	18
(4) こども劇場課（指定管理事業：やまびこ座・こぐま座）	19
(5) 若者支援事業課（指定管理事業：若者支援施設5館）	21
(6) 企画事業課（地域活動等事業：野外活動系事業） （自主事業：滝野自然学園）	23
(7) 企画事業課（指定管理事業：北方自然教育園）	24
(8) 野外活動課（指定管理事業：定山溪自然の村）	25
(9) 野外活動課（指定管理事業：青少年山の家）	26
(10) 市民参画課（指定管理事業：札幌エルプラザ公共4施設）	28
(11) 企画事業課（地域活動等事業：自主事業・受託事業）	30
6. 重要な契約に関する事項	31
7. 基金事業	
IV. 事務報告	34
1. 設立年月日	
2. 定款に定める目的	
3. 定款に定める事業内容	
4. 事務所の状況	
5. 役員等に関する事項	
(1) 理事    (2) 監事    (3) 評議員	
6. 職員に関する事項（事務局組織図）	36
(1) 主要な職員    (2) 職員数	
7. 会計に関する事項	37

## I. 令和4年度 総括

令和4年度は、前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大と収束が日本国内で繰り返されるなか、当財団が大雪像制作等に関わった「第73回さっぽろ雪まつり」がコロナ禍において3年振りにオンラインではなく大通公園にて開催される等、社会全体が感染拡大防止と経済活動の両立を図る「ウィズコロナ」という新たな段階へ徐々に移行した一年であった。当財団においては、コロナ禍における制限の中でも多様な工夫を凝らし各種事業を実施してきたが、制限緩和に伴い中止していたプログラムも順次再開された。また、こども劇場課における中島公園各所に舞台を設けた観客分散型の公演事業や千歳事業所における支笏湖をフィールドにした自然の中でのカヌー体験事業などアイデアを活かした新規事業も数多く展開された事業年度となり、その中で職員一同があらためて直接体験の価値・大切さを再認識することができた。

そのような中で、令和4年度は札幌市の指定管理業務5年間の最終年度でもあり、これまでの取組みへの効果検証を踏まえ、昨今の社会課題の解決に向け、これまで培ってきた事業ノウハウや当財団の強みである部門連携を活かした事業提案を行い、応募した全ての施設において指定管理者として選定を頂いた。併せて、令和5年度が受託最終年度となる千歳市児童館・学童クラブ事業においても、引き続き地域からの信頼を積み上げ、当財団が継続して運営できるよう、次期受託に向け取り組んでいかなければならない。

また、子どもや若者の居場所づくり事業「いとこんち」の取組みが、内閣府「子供と家族・若者応援団表彰」で、内閣府特命担当大臣表彰を受賞した。地域の様々な社会資源を活用した重層的な子ども・若者支援の取組みが評価されたものと受け止め、社会課題や地域課題の解決に向けて、今後さらなる社会資源の活用、地域との積極的な対話・連携を進めていく決意である。

日本社会において、労働力不足が社会問題として深刻化するなか、当財団の事業規模は年々拡大しており、人材の確保と育成が当財団における喫緊の課題である。令和5年度に新設した人事部を中心として、経営戦略と人材戦略の連動を図る他、多様な職員が主体的かつ意欲的に業務に取り組める環境づくりに努め、更なる市民サービス向上に繋げることを目指していく。



## II. 経営理念

「人とのつながりによる魅力あふれる未来社会の創造」

## III. 事業報告

### 1. 事業実施状況

令和4年度 事業基本方針	
1	社会課題解決に対応した事業内容の継続展開
2	事業環境の変化への速やかな対応
3	未来ビジョンに基づく事業の展開
4	デジタル投資による業務変革の推進
5	他部門・他団体との業務連携等の推進

### 2. 施設管理運営

#### (1) 自主事業

1 施設

- ・滝野自然学園

#### (2) 指定管理事業

117 館・4 施設

- ・若者支援施設 5 館
- ・児童会館 109 館
- ・青少年山の家 1 施設
- ・定山溪自然の村 1 施設
- ・北方自然教育園 1 施設
- ・札幌エルプラザ公共 4 施設 1 施設
- ・こどもの劇場やまびこ座 1 館
- ・こども人形劇場こぐま座 1 館
- ・千歳市青少年会館 1 館

#### (3) 受託事業

100 館・18 箇所

- ・ミニ児童会館 90 館
- ・千歳市児童館・学童クラブ 10 館・18 箇所



### 3. 事業実施報告概要（事業区分別）

#### 【定款第4条】 (1)青少年の健全育成と社会参加に関する事業 (2)社会教育の推進に関する事業

##### 公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

###### 子ども育成事業

###### (1)青少年活動支援事業

- ・放課後児童クラブ事業 ・学習活動事業 ・各種講座、講習会
- ・劇団育成支援事業 ・インターンシップ、各種実習の受け入れ

###### (2)体験機会創出事業

- ・社会奉仕活動事業 ・各団体との共同開催事業
- ・子どもの体験活動機会を創出する事業

###### (3)施設管理運営事業

- ・児童会館の管理業務、貸室等 ・こども劇場の管理業務、貸室等
- ・千歳市青少年会館の管理業務、貸室等

###### 若者自立支援事業

###### (1)体験機会創出事業

- ・自立支援プログラム、就労支援トレーニングプログラム
- ・交流促進事業 ・ボランティア参加事業 等

###### (2)受託事業

- ・若者サポートステーション事業（厚生労働省受託事業）等

###### (3)調査研究事業

- ・社会的自立に関する調査・研究事業

###### (4)施設管理運営事業

- ・若者支援総合センター、若者活動センターの管理業務、貸室等

###### 自然体験活動事業

###### (1)滝野自然学園事業

- ・体験機会創出事業 ・職員派遣事業 ・情報発信事業
- ・団体支援事業 ・施設管理運営事業

###### (2)北方自然教育園事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

###### (3)定山溪自然の村事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

###### (4)青少年山の家事業

- ・体験機会創出事業 ・施設管理運営事業

## 【定款第4条】 (3) 市民活動の振興に関する事業

### 公2 男女共同参画をはじめとする市民活動の振興等に関する事業

#### 市民活動振興事業

- |            |                  |             |
|------------|------------------|-------------|
| (1) 活動支援事業 | ・ 男女共同参画啓発事業     | ・ 市民活動関連事業  |
| (2) 職員派遣事業 | ・ NPO活動支援事業      | ・ 相談 ・ 支援事業 |
| (3) 情報発信事業 | ・ 大学、専門学校他への職員派遣 |             |
|            | ・ 各種情報誌の発行事業     |             |

## 【定款第4条】 (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

### 収1 イベント・物品貸与等事業

- ・ 民間企業等から受託したイベント企画運営等事業
- ・ 物品貸与等事業

### 他1 札幌エルプラザ等施設管理運営、 公益目的外での施設貸与事業

- ・ 札幌エルプラザ公共4施設、定山溪自然の村、青少年山の家管理運営
- ・ こども劇場、若者支援施設における公益目的外での施設貸与事業

4. 部門別（各施設）重点目標及び数値目標の達成状況



こども事業課・こども育成課

札幌市児童会館・ミニ児童会館

公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況	
重点目標		<b>【地域活動等事業】</b> ① 札幌まなびのサポート事業「まなべえ」をとおして、学習習慣の習得、基礎的な学力の向上と中高校生の居場所としての児童会館の在り方を確立していく。 ② 子どものくらし支援コーディネート事業をとおして、困難を抱えている子どもや世帯を早期に発見し必要な支援に繋げる。	① 質の高い学習プログラム提供を目的に今年度から学習塾との連携とまなべえ専属の職員の採用を始めた。また、職員と参加者の信頼関係の構築を図り、まなべえ以外の日でも児童会館が居場所となるよう努めた。 ② 児童相談所や区役所等の公的機関に加え、学習支援やこども食堂といった地域活動と対象者を繋げるため同行訪問を行った。さらに保護者との面談に加え、支援者とケース会議の実施や周辺者への助言を行った。	
		<b>【施設運営等事業】 こども事業課</b> ① 各企業・団体とのネットワークを拡大し、日常的な運用を推進する。 ② 事業収支の適正化を図る。	① 当法人職員としての専門性獲得、各種事業展開に生かすネットワーク構築を目的として福祉分野をはじめとする企業・団体と関係を深めた。 ② 新型コロナウイルス感染症を主とする感染症予防対策及び施設・設備等の維持管理、デジタル環境を含む環境整備に重点を置いた投資を進めた。	
		<b>【施設運営等事業】 こども育成課</b> ① あそびや体験活動を通じた子どもの日常生活支援と発達支援を行う。 ② 子どもと子育て家庭が抱える課題に対する予防と早期発見・対応力の強化に努める。 ③ 子どもをまんなかに据えた、子ども視点の児童会館運営を行う。 ④ デジタル社会における児童会館に求められるニーズの把握と活用を検討する。 ⑤ 子ども行政の動向把握と次期指定管理業務へ向けた取り組みを行う。 ⑥ 未来を担う子どもたちのために、職員同士が育ち合う環境を整え、人間性豊かな指導者の育成を目指す。	① 地域施設との関わりも徐々に再開し、各館工夫を凝らし本来の児童会館運営を行った。 ② 全館職員対象の虐待防止研修を実施し、通報・相談や保護者との信頼関係構築について具体的な対応を学び、対応力向上に努めた。 ③ 日常活動の中では子どもたちの主体性を尊重し、また、子ども運営委員会では子どもたちが実現したいことをサポートし計1,084回の事業を実施した。さらに、子どもたちが安心安全な環境で過ごせるために、子どもの対応をする職員の姿勢を明文化した「子どものセーフガーディング」の策定を行った。 ④ デジタル戦略推進室との連携により新たな見守りシステムとデジタル連絡帳を導入し利用者の利便性向上と業務の省力化を行った。 ⑤ 次期指定管理の提案に向けてこども家庭庁の動きやこども基本法の理解等、子ども行政の動向把握に努めた。 ⑥ こども育成課アカデミーや社会課題に関する勉強会、オンライン情報交流会を実施し、職員同士が学ぶ機会を多く設けた。	
	数値目標	共通目標	① 利用者総数（こども育成課）3,000,000人 ② 事業プログラム参加者総数 【こども事業課】3,000人 【こども育成課】550,000人 ③ 利用者アンケートにおける満足度 【こども事業課】4.5(5段階評価) 【こども育成課】80.0%	① 3,427,869人(114.3%) ② 【こども事業課】 5,114人(170.5%) 【こども育成課】 642,659人(116.8%) ③ 【こども事業課】 4.9(5段階評価) 【こども育成課】 87.9%
		部門目標	<b>【こども事業課】</b> ① 各種企業・団体等新規関連ネットワーク団体数 15団体 <b>【こども育成課】</b> ① 地域と連携した事業の実施 200回(全館) ② クラブ・サークル成果発表の機会 400回 ③ 子どもたちによる読み聞かせの実施 6,000回 ④ 子ども運営委員会の企画する事業実施 400回 ⑤ 自然体験活動の実施 1,000回	① 15団体(100.0%) ① 1,118回(559.0%) ② 1,142回(285.5%) ③ 9,628回(160.5%) ④ 1,084回(271.0%) ⑤ 2,804回(280.4%)



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		<b>【地域活動等事業】</b> ① 千歳市及び周辺市町村の教育機関、企業等関係組織への広報活動。	① 千歳市内の学校長会ならびに教頭会において財団について説明する機会をいただいた他、株式会社もりもとやキリンビール株式会社等の地場企業と連携した事業を実施し、一定の関係構築を図ることができた。
		<b>【施設運営等事業】</b> ① 子ども・若者に寄り添う姿勢の継続と若者支援の第一歩。  ② 地域と交わる施設運営。  ③ 千歳事業所機能の深化と広報機能の強化。	① 子どもたちとの日常的な関わりの中で、一つ一つの出来事に対して丁寧かつ親身に寄り添いながら問題解決に尽力した。また、施設を卒業した若者が自身の抱える悩みについて相談に来ることがあり、職員や施設が拠り所となる関わりを作っている。  ② 乳幼児親子から中学生までのすべての利用者とコミュニケーションを図り、必要に応じて千歳市子ども福祉部や児童相談所等の関係機関と連携して支援を実施した。  ③ 他課連携事業や地場企業連携事業を実施するにあたり、千歳市内の企業や行政機関に千歳事業所や財団について説明する機会が増え、認知度向上や協力団体の獲得に繋げることができた。
	数値目標	共通目標	① 利用者総数 200,000人 ② 事業プログラム参加者総数 7,000人 ③ 利用者アンケートにおける満足度 90%
部門目標		① 連携事業に向けた千歳市周辺企業等への訪問 10団体  ① 児童館運営協議会の設置 8館	① 18団体 (180.0%)  ① 8館 (100.0%)



## 公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況
重点目標		<b>【地域活動等事業】</b> ① 積極的な広報活動の実施。	① 施設利用団体をはじめ、周辺企業や住民に対し管理者が変更となる周知をする際に、財団のパンフレットを配布する等の広報活動を行い、当財団の認知度向上と関係構築に努めた。
		<b>【施設運営等事業】</b> ① 適切な業務履行と施設認知度の向上。  ② 利用者ニーズの把握とそれらを捉えた施設運営の実施。  ③ 青少年の健全育成の推進。	① 管理業務初年度となることから、これまでの運営記録に目を通し施設の状態や利用団体の状況把握に努め、切れ目のない適切な業務開始となるよう取り組んだ。また、児童館・学童クラブの利用者に対して青少年会館の利用を促す等、認知度向上を図った。  ② 施設利用者アンケートの結果を受け、待合スペースとなるロビーを設置し、利用者のニーズに合わせた環境整備に努めた。  ③ 大学サークルや専門学校生の利用回数増加を目的とし、体育用品の貸出や予約状況の積極開示を行う等、青少年世代の利用促進に努めた。
数値目標	共通目標	① 利用者総数 11,500 人 ② 事業プログラム参加者総数 50 人 ③ 利用者アンケートにおける満足度 90%	① 13,509 人 (117.5%) ② 未実施 ③ 83.9%
	部門目標	① 若者支援における協力関係の構築を目的とした関係機関等への訪問 10 件	① 5 件 (50.0%)



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

取1 イベント・物品貸与等事業

他1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		<b>【地域活動等事業】</b> ① 夢と笑顔と人が集いあう劇場づくり。	① コロナ禍でも子どもたちが安心・安全に文化芸術や観劇を体験できよう新たな劇場スタイルを実践した。「三密」を回避するために中島公園に野外ステージを設け屋外で観劇を楽しめる事業の企画や、児童会館や札幌市内の特別支援学校へ人形劇団やパフォーマーが出向き、より多くの子どもたちに伝統文化を体験してもらう機会を創出した。また、公演においては、チケットのWeb事前予約を可能とし、観劇希望者の利便性の向上に努めた。
		<b>【施設運営等事業】</b> ① 子どもたちへ芸術の鑑賞及び体験機会の拡充。 ② 豊かな子ども文化の街・さっぽろをデザインする。 ③ 文化芸術の持つ社会的包摂機能の推進。	① 「応援☆人形劇おでかけ公演&舞台体験ワークショップ」では、札幌市内の児童会館23館に人形劇団やパフォーマーを派遣し、生の舞台を子どもたちに観てもらい、伝統芸能を体験する機会を提供した。 ② こぐま座のある中島公園のフィールドを活かした公演事業の実施等により、これまで劇場に足を運ぶことがなかった市民に興味関心を持ってもらう機会を創出することができた。 ③ 昨年度に引き続き障がいのある子どもたちと創る人形劇「北のおぼけ箱1・2」を実施した。また、文化庁より「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、近隣小学校の特別支援学級の子どもたちと人形劇創作活動に取り組んだ。
	共通目標	① 利用者総数（年間利用者数） やまびこ座 55,000人 こぐま座 15,000人 ② 事業プログラム参加者総数 24,000人 ③ 参加者アンケートにおける満足度 85%	① やまびこ座 43,090人 (78.3%) こぐま座 24,851人 (165.7%) ② 20,631人 (86.0%) ③ 97.0%
数値目標	<b>部門目標</b> ① 新規人形劇団の誕生及び育成 3劇団 ② 年間上演日数及び公演数 上演 240日 公演 400回 ③ 中島児童会館・人形劇場こぐま座資料室『MA・SO・BO』年間利用者人数 10,000人	① 5劇団 (166.7%) ② 上演 267日 (111.3%) 公演 397回 (99.3%) ③ 12,084人 (120.8%)	



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

他1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b></p> <p>① 地域若者サポートステーション事業常設サテライトの運営を行い、職業的自立に向けたキャリアコンサルティングや就労支援プログラムを実施する。</p> <p>② 白石区複合庁舎まちづくりイベント広場等管理運営事業を行い、賑わいを創出する。</p> <p><b>【施設運営等事業】</b></p> <p>① 若者の居場所機能拡充及びユースワークの理念の共有について、独自に設定した居場所づくりの評価指標を基に段階的に構築する。</p> <p>② 居場所で出会った「子ども・若者当事者」のアドボカシーを推進する。</p> <p>③ さっぽろの若者支援のトップリーダーとして事業を推進し、「発信力」と「影響力」を高める。</p> <p>④ デジタルリソース・データを最大限に活用した効率的・効果的な運営を行う。</p>	<p>① 指定管理施設を母体としながら、サポステ事業受託によって若者の職業的自立という視点での支援を強化した。更に「サポステ事業」をきっかけに施設や当財団の認知度も向上し相乗効果が出ている。</p> <p>② 広場の管理運営業務の他、Youth+主催による若者のイラスト等の作品を展示する「Youth+合同展覧会」や市民と若者の交流を目的とした「ハロウィンイベント」を実施し、若者が地域と繋がる機会を創出した。</p> <p>① 各 Youth+において施設外の居場所を確保し、評価指標を基に月単位での振り返りを実施することで、現状の把握や課題の解決に向けて取り組んだ。</p> <p>② 「子ども・若者当事者」の声を大人や社会に届けるアドボカシーの推進に重点を置き、ヤングケアラー交流サロン事業をはじめ、規模を問わず多くの事業展開を積み重ねた。</p> <p>③ 平塚科研研究会やユースワーク協議会等、他都市の若者支援団体との連携を図り、ユースワーカーとしての力量を高めた。さらに昨年度から準備してきた書籍「ユースワークとしての若者支援―場をつくる、場を描く―」を発行した。</p> <p>④ 利用者証のデジタル化や貸室利用申し込みをシステム化し、利用者の利便性向上と職員の省力化を図った。また、事業の実施方法として対面とオンラインを併用し若者が参加しやすい方法を選択できる環境整備を行った。</p>
	共通目標	<p>① 利用者総数 230,000 人</p> <p>② 事業プログラム参加者総数 40,000 人</p> <p>③ 参加者アンケートにおける満足度 98%</p>	<p>① 218,232 人 (94.9%)</p> <p>② 41,251 人 (103.1%)</p> <p>③ 98.0%</p>
数値目標	部門目標	<p>① 利用証の発行を受けた若者数 11,000 人</p> <p>② 若者等登録者の延べ利用者数 180,000 人</p> <p>③ 新規に相談を受けた自立支援登録者数 400 人</p> <p>④ 進路決定及び適切な支援機関につながった困難を有する若者数 345 人</p> <p>⑤ 交流促進プログラムに参加した若者の延べ人数 6,500 人</p> <p>⑥ 社会活動及び育成プログラムに参加した若者の延べ人数 3,000 人</p>	<p>① 11,873 人 (107.9%)</p> <p>② 162,871 人 (90.5%)</p> <p>③ 392 人 (98.0%)</p> <p>④ 312 人 (90.4%)</p> <p>⑤ 5,804 人 (89.3%)</p> <p>⑥ 1,872 人 (62.4%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

		内容	達成状況	
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b></p> <p>① 収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。</p> <p>② 魅力ある施設周辺フィールドを活かした自然体験プログラムの提案等、PR活動を進め、財団内外の新規・リピートの利用促進を図る。</p> <p>③ 関連NPO団体との連携体制を強化し、効率的な施設運営、事業展開を目指す。</p> <p>④ 施設の歴史や野外事業の効果を振り返り、組織に有益な知識や事例の積み上げを行う。</p>	<p>① 「クボタ e プロジェクト」の他、数年ぶりとなる「幼保小連携なかよしキャンプ」事業を外部から受託した。</p> <p>② 財団内部向けには、プログラム体験会を実施し、児童会館の新規・リピート利用の促進を図った。また、外部向けには、施設の裏山や近くのアシリベツ川等の自然環境や体験プログラムの情報発信を行った。</p> <p>③ 運営補助業務を委託しているネイチャープログラムデザインと月1回運営会議を実施した他、「ファミリーデイキャンプ」や「森のがっこう」等の実施時には、委託団体とともにプログラム策定の段階から連携を図り、各団体の強みを活かした事業展開を図った。</p> <p>④ コロナ禍で制限が多い中でも、宿泊事業を実施し、財団の根幹である「グループワーク」の知識や技術を継承する機会となった。</p>	
	数値目標	共通目標	<p>① 利用者総数 2,650人</p> <p>② 事業プログラム参加者総数 500人</p> <p>③ 参加者アンケートにおける満足度 95%</p>	<p>① 3,919人 (147.9%)</p> <p>② 834人 (166.8%)</p> <p>③ 98.0%</p>
		部門目標	<p>① 財団内利用件数 25件</p>	<p>① 38件 (152.0%)</p>





		内容	達成状況	
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b></p> <p>① 市内の自然環境や動植物についてのセミナーを実施し、自然環境の保全や共生について考える機会を提供する。</p> <p>② 地域住民との関係性を深めるための地域活動へ参加する。</p> <p><b>【施設運営等事業】</b></p> <p>① 小中学校の体験学習への安定的な機会提供と学習機会の強化を行う。</p> <p>② 生物教材配布の生物飼育方法の見直しと幼保小中学校への安定的な供給を行う。</p> <p>③ SNS、HP、オンライン会議等を活用し、小中学校に対する事前・事後学習の支援を行う。</p> <p>④ 野外施設部内の連携強化及び他セクションの強みを活かした事業連携の強化を図る。</p> <p>⑤ 特定非営利活動法人ネイチャープログラムデザインとの連携を進める。</p>	<p>① 川の生き物をテーマに講師を招き、実際に生き物を見たり、触れながらその生態や自然環境保全について学ぶセミナーを実施した。</p> <p>② 白川地区の地域活動として、共同で使用する水源の草刈りや泥すくい等の整備を行い、円滑な関係構築に努めた。</p> <p>① 限られた時間の中でも有益な体験学習となるよう事業説明の際はパネルを活用する等、事業プログラムの見直しを行った。</p> <p>② 用意する生物や苗の準備を計画的に行い、温度管理を徹底したことにより、希望する全ての教育機関に安定した供給を行うことができた。</p> <p>③ HPに水田作業の動画を掲載した他、小学校教員に向け、体験農場の内容や活用方法、生物教材配布後の生物育成方法を伝える内容の動画を、所管局である教育委員会と共同で作成した。</p> <p>④ 北方自然教育園が保有する自然豊かな環境と、環境プラザの自然に関わる展示物や豊富な環境プログラムといったそれぞれの強みを活かした事業プログラムを組み立て、参加者にとって双方の施設の良さを知ってもらえる事業を実施した。</p> <p>⑤ 農作業の知識の伝承を中心にそれぞれの持つ技術や知識を共有することができた。</p>	
	数値目標	共通目標	<p>① 利用者総数 7,500人</p> <p>② 事業プログラム参加者総数 650人</p> <p>③ 参加者アンケートにおける満足度 87%</p>	<p>① 8,275人 (110.3%)</p> <p>② 594人 (91.4%)</p> <p>③ 90.0%</p>
		部門目標	<p>① 小中学校を対象とした農業体験実施校数 40校(2,000人) (延べ数)</p> <p>② 学習館入館の料金収入維持 100,000円</p>	<p>① 64校(2,550人) (160.0%) ※達成率については目標校数/40校より算出</p> <p>② 117,300円 (117.3%)</p>



公 1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他 1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況	
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b></p> <p>① 札幌市内の児童に対する自然体験活動プログラムの提供を行う。</p> <p><b>【施設運営等事業】</b></p> <p>① 自然体験活動に対して特別な支援を必要とする児童、団体等を対象としたスペシャルニーズキャンプを実践する。</p> <p>② 利用促進を目的とした事業プログラムの開発と提供を行う。</p> <p>③ SNS や HP を活用した利用促進事業を実施する。</p> <p>④ 他団体や企業との連携を強化し、利用促進に繋がる教育的効果の高い事業を多様な手法を用いて実施する。</p> <p>⑤ 野外施設部内の連携強化及び他セクションの強みを活かした事業連携の強化を図る。</p>	<p>① 小学校 2 校の受け入れや、札幌市児童会館を対象とした自然体験事業「ようこそ児童会館」を実施した他、千歳市児童館の受け入れを新たに行い、定山溪遊々の森をフィールドとした自然体験プログラムの提供を行った。</p> <p>① 昨年度に引き続き特別支援学級の受け入れを行った。日帰り活動から宿泊活動へステップアップした学校もあるなか、利用者ニーズに寄り添ったプログラムを展開した。</p> <p>② 新規利用者の獲得を目指し、星空やネイチャーフォトに精通しているプロカメラマンを講師に招き、昼は裏山の中での写真撮影、夜は星空撮影のレクチャーをいただいた。また、スノーハイク体験会等、新たなキャンプ活動の提供を行った他、コロナ禍で中止していた「森の観察会」「森の工作会」を再開するために提供方法の再考やフィールド整備を行い参加者から好評を得た。</p> <p>③ Instagram・Facebook 等の SNS では事業情報や施設からのお知らせを発信し、YouTube では事業当日の様子を配信し参加できなかった方にも楽しんでもらう取組みを進めた。</p> <p>④ アウトドア企業や地元企業と連携し「定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル」を実施した他、札幌市青少年科学館、札幌市円山動物園とも事業連携を図った。</p> <p>⑤ 「森のようちえん」（市民参画課環境プラザ）「定山溪小ミニ児童会館クラブ活動」（こども育成課）等の連携事業を実施した。</p>	
	数値目標	共通目標	<p>① 利用者総数 16,700 人</p> <p>② 事業プログラム参加者総数 4,500 人</p> <p>③ 利用者アンケートにおける満足度 98%</p>	<p>① 13,846 人 (82.9%)</p> <p>② 4,204 人 (93.4%)</p> <p>③ 99.0%</p>
		部門目標	<p>① 冬季野外活動の提案（下期利用率）35%</p> <p>② セルフモニタリング調査（実施件数）400 件</p> <p>③ 実践型森林環境教育の推進（参加人数）1,200 人</p> <p>④ 貸室業務 16,750 千円</p>	<p>① 30.5%</p> <p>② 400 件 (100.0%)</p> <p>③ 1,259 人 (104.9%)</p> <p>④ 12,636 千円 (75.4%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

他1 目的外での施設貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b></p> <p>① さらに戦力向上へ向け、教育を柱に戦略的にプログラム開発を続け、同時に効果検証方法の見直しと表現力の獲得を目指す。</p> <p><b>【施設運営等事業】</b></p> <p>① 新スタンダード形式の継続促進。プログラム転換と施設整備を進め、利用価値を再構成するとともに、情勢に合わせて利用促進を図る。</p> <p>② 他部門、他団体、地域との関係性の成長。長期的視点のもと他部門、他団体、利用者との協働機会を探り、共に変化を乗り越え未来を作るために関係性を強化する。</p> <p>③ 業務効率化の推進。利用サービスの質の向上へ向けて、再委託内容の見直しやデジタル投資により利用受付の簡便化とセキュリティ強化、効率化を推進する。</p>	<p>① 駒岡小学校では学校林を題材とした環境共生プログラムを継続的な関わりの中で深めており、令和4年度は教科学習との連動を図る形で森林循環や動物生態系をテーマにしたプログラムを学校側と協働して取り組んだ。</p> <p>① 利用環境整備を進め通常の野外炊事プログラムを再開させた。また、コロナ禍において体験機会を失った世代を対象とした親子宿泊事業の他、宿泊学習に欠席した児童や、出席しても感染症対策が原因で満足な活動ができなかった児童を対象とした宿泊事業を実施した。</p> <p>② 夏休み期間にこども事業課・こども育成課と連携し児童会館の児童を対象とした体験会を実施した。また、冬季の利用閑散期には千歳市児童館へヒグマ・エゾシカトランクキット出張事業を行った。</p> <p>③ 利用状況管理システムにおいて、利用者の提出データをシステムに直接取り込む機能を追加したことにより業務の効率化に繋がった。</p>
	数値目標	<p><b>共通目標</b></p> <p>① 利用者総数 48,000人</p> <p>② 事業プログラム参加者総数 7,200人</p> <p>③ 利用者アンケートにおける満足度 97%</p> <p><b>部門目標</b></p> <p>① 利用のしやすさに対する満足度 93%</p> <p>② 実利用人数 28,000人</p> <p>③ 閑散期の一般利用団体数 20団体</p>	<p>① 53,107人 (110.6%)</p> <p>② 15,392人 (213.8%)</p> <p>③ 99.0%</p> <p>① 93.0%</p> <p>② 34,444人 (123.0%)</p> <p>③ 21団体 (105.0%)</p>





		内容	達成状況
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b> 次の時代を見据え受託事業等に取り組み、ノウハウの蓄積や国や関係機関との連携を意識した事業展開を図る。</p> <p><b>【施設運営等事業】</b></p> <p>●男女共同参画センター事業</p> <p>① ジェンダー平等達成に向けた取り組みを行う。 ② 子ども・若者のエンパワメント事業を実施する。 ③ ワーク・ライフ支援を行う。</p> <p>●市民活動サポートセンター事業</p> <p>① 次世代活動者の掘り起こしと支援を行う。 (人材養成、コーディネート) ② 市民活動団体との協働拡充を図る。</p> <p>●環境プラザ事業</p> <p>① さまざまな団体との関わりを継続し多面的に連携する。 ② 情報収集・発信を充実させる。</p> <p>●情報センター事業</p> <p>① 人と人、人と情報をつなぐ取り組みを実施し、コミュニティを形成する。</p>	<p>子ども未来局からの受託事業「困難を抱えた若年女性支援業務」では、10件の居場所の提供、6件の自立支援を行う等、延べ1,846人の若年女性に対応した。男女共同参画室からの受託事業「困難を抱える女性のための支援業務」では、クラウディ・キッチンに延べ1,184人の女性が参加した。</p> <p>●男女共同参画センター事業</p> <p>出張講座を25箇所で開催することで、1,557人の方にジェンダーに関わる学びの機会を提供した。</p> <p>●市民活動サポートセンター事業</p> <p>若年世代の中心として活動を行っている方にゲスト等で協力いただき同世代を対象とした講演会を実施した。結果、それぞれのゲストと繋がりのある参加者も集まり、センター単独ではアプローチの難しかった層との繋がりを新たに作る事ができた。こうした層がセンターを認知し、新たな利用者層となったことは大きな成果であった。</p> <p>●環境プラザ事業</p> <p>新たにInstagramを開設し、より広範な層への発信を進めた。従来使用していたFacebookとは利用層が異なるため、初めて環境プラザや事業を知ったという声を事業アンケートで多くいただいた。定期的実施したテーマに沿った展示では環境団体、学生団体等に協力いただく機会が多く、こうした協力をきっかけに他事業においても連携することができ、継続的な関係構築を図ることができた。</p> <p>●情報センター事業</p> <p>視聴覚資料を活用する「エルプラ・シネマ」を全5回実施し延べ176人に参加いただき、4分野のテーマについて映画を見て考える機会を提供できた。</p>
	共通目標	<p>① 利用者総数 456,000人 ② 事業プログラム参加者総数 37,500人 ③ 参加者アンケートにおける満足度 施設満足度 86% 接遇満足度 86%</p>	<p>① 435,432人 (95.5%) ② 11,653人 (31.1%) ③ 施設満足度 95.0% 接遇満足度 97.1%</p>
数値目標	部門目標	<p>① 男女共同参画センター 男女共同参画の啓発の取り組み 40回 ② 市民活動サポートセンター 市民活動啓発事業の実施/相談 9回/600回 ③ 環境プラザ事業 環境活動の機会提供 50回 ④ 情報センター事業 SDGsに係る啓発活動につながる取り組み 12回</p>	<p>① 72回 (180.0%) ② 9回 (100.0%) /612回 (102.0%) ③ 56回 (112.0%) ④ 29回 (241.7%)</p>



公1 青少年の健全育成と社会参加、体験活動等に関する事業

収1 イベント・物品貸与等事業

		内容	達成状況
重点目標		<p><b>【地域活動等事業】</b></p> <p>① 収支の適正化を図るとともに、補助金等の獲得や外部事業の受託を促進する。</p> <p>② 「体験活動」と「非接触型プログラム」のバランスをとり、事業提案と実施を進める。</p> <p>③ 「あそぼ」等の広報活動の継続と効果的な活用を図る。</p> <p>④ 労働安全衛生法第59条第3項に基づく「特別教育等」の実施を体系化し、財団内で継続的に実施できる方法を確立する。</p>	<p>① 札幌テレビ放送株式会社からの受託事業「第73回さっぽろ雪まつり4丁目STV広場サテライト会場スノーパーク等制作業務」や、株式会社ジェイコム札幌より受託した「第73回さっぽろ雪まつり大通会場1丁目における雪のステージ等制作業務」等の雪像制作事業を新規で獲得した。</p> <p>② 新型コロナウイルス感染症対策等を徹底したうえで、委託者の意向に沿った事業プログラムを練り、直接体験を中心にした事業を実施した。</p> <p>③ 財団広報誌「あそぼ」の発行を含めた広報活動については財団広報プロジェクトとともに効果を最大限発揮できるよう検討を重ねながら、押し進めた。</p> <p>④ 「刈払機」の安全衛生教育については継続的に取り組むことができた他、「小型重機」については初の取り組みとして実施することができ、職員の事故抑止と健康障害の防止に努めた。</p>
	共通目標	<p>① 事業プログラム参加者総数 3,648人</p> <p>② 利用者アンケートにおける満足度 93%</p>	<p>① 78名 (2.1%)</p> <p>② 100%</p>
数値目標	部門目標	<p>① イベント収益総額 6,800万円</p> <p>② 他課連携事業回数 3回</p> <p>③ 財団内「特別教育等」実施回数 4回</p>	<p>① 6,483万円 (95.3%)</p> <p>② 8回 (266.7%)</p> <p>③ 3回 (75.0%)</p>



## 5. 各課（各施設）事業実施報告

### (1) こども事業課・こども育成課【指定管理事業：児童会館 109 館】

#### 【受託事業：ミニ児童会館 90 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「東雁来児童会館ちよびボラ隊」</p> <p>昨年度から継続して実施している子どもたちによる地域のためのボランティア活動。町内会の方も交え、ごみ拾いを中心に毎月活動し、地域向けの活動報告通信も発行した。7 月には札幌ドームで開催された「さっぽろ環境広場 2022」に参加し、ボランティア活動の様子をスライドショーを交えて発表し、活動のステップアップを図ることができた。</p>	<p>日時：5 月～3 月</p> <p>計 12 回実施</p> <p>会場：東雁来児童会館敷地内外周辺</p> <p>※7 月 30 日札幌ドーム</p> <p>参加総数：60 人</p>
	<p>「Fun ! Fan ! KIYOTA」</p> <p>清田区総合庁舎周辺における恒常的な賑わいや交流創出を目的とした地域主催事業に参加をした。第 1 弾では、札幌国際大学の学生が考えたまち歩きをテーマとしたクイズラリーに挑戦をしたり、地域の方から「あしりべつ」について豆知識を教えていただきながら交流を図ることができた。第 2 弾では、清田区役所前の広場でスノーキャンドルづくりに参加し、地域のさまざまな団体と交流ができた。</p>	<p>日時：10 月 15 日</p> <p>2 月 4 日</p> <p>会場：清田区役所周辺</p> <p>参加人数：</p> <p>10 月実施分 80 人</p> <p>2 月実施分 40 人</p>
	<p>「西岡高台児童会館開館 30 周年記念事業 ～笑顔の花をさかせよう！～」</p> <p>開館 30 周年を記念したお祭りにて、子ども運営委員会の児童が中心となってゲームコーナーを運営した。特に小学 3 年生以下の子どもにとってはコロナ禍で初めてのお祭りとなり、景品をもらうことや、わなげや射的といった普段とは違う遊びを提供することでテーマにある、笑顔あふれる事業となった。</p>	<p>日時：12 月 10 日</p> <p>会場：西岡高台児童会館</p> <p>参加人数：90 人</p>
青少年活動支援事業	<p>「札幌まなびのサポート事業『まなべえ』」</p> <p>生活保護受給世帯及び就学援助利用世帯の中学生を対象に「学習支援」を基盤とし、参加者の心の成長を育み一人一人の未来を広げ、繋げることを目的に実施した。令和 4 年度はまなべえ専属職員の採用を始め、複数会場を担当することで横断的な運営に努めた。</p>	<p>期間：通年</p> <p>回数：各会場週 1 回</p> <p>会場：市内 40 会場</p> <p>登録中学生：494 人</p>
	<p>「子どものくらし支援コーディネート事業」</p> <p>子どもの居場所を巡回する中で保護者や周辺者から相談を受け、必要に応じて各種関係機関と連携のうえ、ケースに対応した。保護者との面談や支援機関への同行支援に加え、支援者とのケース会議実施や周辺者への助言を行うことで、子ども・世帯に必要な制度・資源に繋げる等、重層的な連携体制の構築に資することができた。</p>	<p>期間：通年</p> <p>新規相談受案件数：188 件</p> <p>継続支援ケース：584 件</p>
	<p>「ヤングケアラー交流サロン運営業務」</p> <p>令和 4 年 10 月から札幌市より受託し若者支援事業課との連携事業として実施した。ヤングケアラーの子どもたちが気軽に悩みを打ち明けられ、本人同士が交流・情報交換し、精神的安定を得て支え合いの場となる居場所機能、そして必要な支援に繋げるための相談支援機能を持つ場づくりをした。継続的に足を運んでくれる参加者も多く、個別に進路相談対応する機会もあり、一人一人に寄り添った事業を実施できた。</p>	<p>日時：10 月 8 日～</p> <p>3 月 27 日</p> <p>計 7 回実施</p> <p>会場：</p> <p>みんなの休憩処ひとてま</p> <p>参加人数：35 人(延べ)</p>

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
社会参加・ 貢献啓発事業	「映画『ゆめパのじかん』上映会&西野博之さんアフタートーク『子どものじかん』ってなんだろう？」 川崎市子どもの権利に関する条例をもとに設置された「川崎市子ども夢パーク」における子どもたちの育ちを撮影したドキュメンタリー映画『ゆめパのじかん』の上映会を、子育て中や子どもの育ちに関わる方を対象に実施した。実際に運営に携わる西野博之氏のアフタートークでは、子どもの権利や居場所づくりに必要なこととお話いただき、大人の役割について参加者と考える機会となった。	日時：2月23日 会場： ACU-A 大研修室 参加人数：137人

## 令和4年度 札幌市児童会館・札幌市ミニ児童会館

(利用状況)

区分 利用者区分	開館日数 及び回数 (延べ数)	人 数	利 用 人 数 の 内 数					
			幼児	低学年	高学年	中学生	高校生	一般
児童会館	31,981	2,023,246	107,291	1,397,007	298,203	62,196	25,597	132,952
ミニ児童会館	26,395	1,281,430	1,546	1,075,298	197,465	312	168	6,641
占用利用	9,849	123,193	5,147	20,839	24,021	23,070	2,760	47,356
総 利 用		3,427,869	113,984	2,493,144	519,689	85,578	28,525	186,949
前年度比		2,726,976 (125.7%)	59,112 (192.8%)	2,124,090 (117.4%)	389,782 (133.3%)	46,497 (184.1%)	14,560 (195.9%)	92,935 (201.2%)

(児童クラブ在籍数)

区分	令和4年度4月末日現在の在籍数							延べ 入会	延べ 退会	令和5年3月末日現在の在籍数						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計			1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
在籍人数	6,531	6,166	4,781	2,911	1,431	616	22,436	26,345	3,724	7,092	6,372	4,874	2,952	1,453	609	23,352

4月末日現在の在籍数の比較(前年度 20,965人・前年比 107.0%)

(障がい児受け入れ数)

区分	(人)							内訳	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	クラブ	直接来館
普通学級	154	149	161	93	76	32	665	659	6
特別支援学級	114	138	108	78	51	34	523	507	16
特別支援学校	2	2	2	2	0	1	9	9	0
計	270	289	271	173	127	67	1,197	1,175	22

(前年度 1,065人・前年比 112.4%)

(2) 千歳事業所【受託事業：千歳市児童館 10 館・学童クラブ 18 箇所】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<b>「みんなでカヌー体験 in 支笏湖」</b> 子どもたちの豊かな成長の機会の創出と、千歳市における財団の認知度向上を目的に実施した。これまでに培った水上での安全管理や技術指導を企画事業課と連携することで補完し、参加者からは「また参加したい」との声が多く上がり、財団の強みを活かした事業展開を図ることができた。	日時：8月1日、2日 会場：支笏湖モラップキャンプ場 参加人数：78人（延べ）
	<b>「第1回いずみさわ音楽祭」</b> いずみさわ児童館の和太鼓クラブといずみさわ地域にある向陽台中学校の合唱部との合同で音楽祭を実施した。開催のきっかけは中学校の合唱部からの発表の場がないという相談からであった。和太鼓クラブとしても練習の成果を見せる機会となることから思いが合致し開催に至った。力強い和太鼓と合唱がコラボレーションし、日頃児童館には足を運ばない地域の方々や発表する児童の友人・保護者が集う大盛況のイベントとなった。	日時：12月26日 会場：いずみさわ児童館 参加人数：77人
	<b>「お正月お楽しみ会」</b> みどり台児童館、きらきら学童クラブ、ぴかぴか学童クラブの合同でお正月行事を実施し、各館に来館する児童が一緒になって遊ぶ機会を設けた。かるた等をとおして日本ならではの正月の伝統や習わしを体感した。	日時：1月13日 会場：みどり台児童館 参加人数：97人

児童館・学童クラブ 利用者総数

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
学童クラブ	9,889	9,291	11,003	9,574	8,927	9,092	9,033	7,826	8,183	7,893	7,802	9,098	107,611
児童館	7,062	6,450	7,854	7,898	7,047	6,433	7,276	6,383	7,177	6,837	6,733	9,509	86,659
総計	16,951	15,741	18,857	17,472	15,974	15,525	16,309	14,209	15,360	14,730	14,535	18,607	194,270

(学童クラブ 前年度利用人数 91,386人 前年比 117.8%)  
 (児童館 前年度利用人数 50,210人 前年比 172.6%)  
 (総計 前年度利用人数 141,596人 前年比 137.2%)

(3) 千歳事業所【指定管理事業：千歳市青少年会館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<b>利用者アンケートの実施</b> 利用者ニーズの把握ならびにより良い施設運営を目的とし、利用者アンケート調査を実施した。いただいた意見は今後の施設運営に反映することにする。	日時：3月20日～3月31日 会場：青少年会館 参加人数：59人

青少年会館

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設利用者	764	1,061	1,279	954	664	1,285	1,209	1,386	1,092	944	1,427	1,444	13,509



(4) こども劇場課【指定管理事業：やまびこ座・こぐま座】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
人材育成事業	<p>こぐま座サイトスペシフィック・パフォーマンス 『ピクニックシアター「コロポックル・シンパヤ」』</p> <p>中島公園という自然豊かなフィールドを生かすことで、札幌の人形劇文化の可能性を広げる目的で実施した。アイヌやオホーツク等の歴史や文化をテーマに、ヨーロッパで実践されている「サイトスペシフィック・パフォーマンス」という観客が移動しながら舞台を楽しむ観客参加型の形式を用いて人形劇ツアーを企画した。ワークショップをとおして子どもたちや市民が人形劇を体験できる機会を作り出すことができた。</p>	<p>日時：6月25日、26日 会場：こぐま座・中島公園 参加人数：884人</p>
	<p>こども育成課・こども劇場課連携 世界人形劇の日 「札幌市児童会館人形劇フェスティバル」</p> <p>国際人形劇連盟が2003年に制定した3月21日の「世界人形劇の日」に合わせて、札幌市内の児童会館人形劇クラブの子どもたちが一堂に会す事業を実施した。児童会館7館の人形劇クラブとこども育成課職員で結成した人形劇団が連続公演をし、公演後にはレクリエーション等で参加者間の交流を深めた。当日会場に足を運べない方のために初の試みとしてYouTubeでライブ配信を行い、1,000回を超える再生数を得ることができた。</p>	<p>日時：3月21日 会場：やまびこ座 参加人数：335人</p>
公演事業	<p>「座・競演～次世代へ継ぐ伝統人形芝居～福島公演～」</p> <p>やまびこ座で開講している中高生向けの人形浄瑠璃講習会「ぎ・にんぎょうるりユースクラス」のメンバーを派遣して実施した。同じ伝統芸能に取り組む同世代の若者が一堂に会することで、互いに刺激し合い共感する場となった。このような交流の場を設けたことで、次世代の文化活動の活性化とそれを担う人材の育成に繋げることができた。また、10～20代の若手の活躍を伝えられたことは、伝統芸能の明るい未来を感じさせ、理解者や支援者を増やすことにも繋がる大変意義のあるものになった。</p>	<p>日時：3月26日 会場：福島市子どもの夢を育む施設こむこむ 参加人数：210人</p>



■ こどもの劇場「やまびこ座」

【利用状況】

区 分	件 数 (件)	人数 (人)
ホール	649	21,316
会議室	362	2,460
研修室	480	5,705
美術工作室	534	4,910
ロビー・展示室・図書コーナー	-	5,897
研修・見学	-	94
その他 (アウトリーチ事業、屋外事業等)	-	2,708
総 利 用 数	2,025	43,090

利用件数 前年度： 1,317件 前年比： 153.8%  
 利用人数 前年度： 26,174人 前年比： 164.6%

※ホール利用内訳

観劇者数	無料 (人)	1,530
	招待 (人)	923
	有料 (人)	10,502
	合計 (人) (a)	12,955
出演者の数 (含むリハーサル) (人) (b)		8,361
出演者観劇者総数 (人) (a + b)		21,316
上演回数 (回)		204
上演日数 (日)		144
仕込み・リハーサル・研修日数 (日)		131
上演1回あたりの観客数 (人)		66

屋外公演 (ホール利用内訳に含まれない事業)

○あおぞらキッズシアター上演回数：7回、5日

○ほしぞらキッズシアター上演回数：2回、2日

上演回数=204回 (ホール195回+屋外9回)

上演日数=144日 (ホール137日+屋外7日)

■ こども人形劇場「こぐま座」

【利用状況】

観劇者数	無料 (人)	2,322
	招待 (人)	390
	有料 (人)	6,279
	合計 (人) (a)	8,991
出演者の数 (含むリハーサル) (人) (b)		2,196
出演者観劇者総数 (人) (a + b)		11,187
研修・見学 (c)		13,664
利用者総数 (a+b+c)		24,851
上演回数 (回)		193
上演日数 (日)		123
仕込み・リハーサル・研修日数 (日)		127
上演1回あたりの観客数 (人)		46.6

利用人数 前年度： 12,927人 前年比： 192.2%

(5) 若者支援事業課【指定管理事業：若者支援施設 5 館】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
交流促進事業	<p>「居場所拡充事業 北光いとこんち」</p> <p>さまざまな理由から Youth+の施設へ来館することが難しい若者を対象に、地域の中で安心できる居場所作りを目的とした拠点型居場所事業を展開した。当初は月2回程度の実施予定であったが、安定した居場所の確保を目的に毎週水曜日を基本とした開催に変更し38回実施した。若者からの希望で近隣の公園への散策や季節のイベント等、体験機会の創出や、食の提供を通じた家庭的雰囲気居場所作りを行った。</p>	<p>日時：5月1日～3月28日 計38回実施 会場：ぎやらりーぼぷらの家 参加人数：69人（延べ）</p>
	<p>「プログラムイベント型 Youth+クエスト」</p> <p>参加者が勇者として体験型ゲームに挑戦する中で、参加者同士の交流を図ることを目的に実施した。若者のアイデアをもとに企画し、実際に若者がユースワーカーと一緒にゲーム内容を考え、また、勇者をイメージした衣装グッズの制作等、当日の運営まで携わった。コロナ禍で失われていた交流イベントの機会となり参加者からは喜びの声があがった。</p>	<p>日時：2月11日 会場：Youth+センター 参加人数：33人</p>
社会参加促進事業	<p>「ユースワーカー養成講座」</p> <p>全3回の講義とグループワークをとおして「ユースワーク」や「ユースワーカー」について学んだ後、各 Youth+施設で体験実習の機会を提供した。グループワークでは、一人一人の持つユースワークのイメージを言葉で表現し、活発な意見交換が行われ、大学生同士が交流を図ることができた。体験実習後には居場所の必要性やユースワーカーの役割について改めて理解を深めた。</p>	<p>日時：11月26日～ 12月18日 講義会場：Youth+センター 体験実習会場：各施設 参加人数：7人（延べ）</p>





札幌市若者支援施設利用者数

(単位：人)

内 訳	センター	アカシア	ポプラ	豊平	宮の沢	合計
自立支援事業	17,191	0	0	0	0	17,191
若者	11,601	0	0	0	0	11,601
一般	5,590	0	0	0	0	5,590
交流促進事業	6,415	3,034	1,951	3,972	1,603	16,975
若者	6,261	2,983	1,941	3,937	1,603	16,725
一般	154	51	10	35	0	250
社会参加促進事業	1,234	1,118	3,181	786	766	7,085
若者	1,180	995	805	662	766	4,408
一般	54	123	2,376	124	0	2,677
ロビー利用	7,715	4,272	2,778	5,174	7,140	27,079
若者	7,652	4,081	2,740	5,029	7,052	26,554
一般	63	191	38	145	88	525
貸室利用	26,707	35,996	7,270	34,077	45,852	149,902
若者	20,172	29,999	4,325	25,259	23,828	103,583
一般	6,535	5,997	2,945	8,818	22,024	46,319
合計	59,262	44,420	15,180	44,009	55,361	218,232
若者	46,866	38,058	9,811	34,887	33,249	162,871
一般	12,396	6,362	5,369	9,122	22,112	55,361

【令和3年度】

※自立支援事業	…若者	9,893人 (R4対比	117.3%)	一般	4,696人 (R4対比	119.0%)
※交流促進事業	…若者	9,493人 (R4対比	176.2%)	一般	213人 (R4対比	117.4%)
※社会参加促進事業	…若者	3,344人 (R4対比	131.8%)	一般	2,664人 (R4対比	97.1%)
※ロビー利用	…若者	10,938人 (R4対比	242.8%)	一般	349人 (R4対比	150.4%)
※貸室利用	…若者	50,617人 (R4対比	204.6%)	一般	13,599人 (R4対比	340.6%)
※総利用者数	…若者	84,285人 (R4対比	193.2%)	一般	21,521人 (R4対比	257.2%)



(6) 企画事業課【地域活動等事業：野外活動系事業、自主事業：滝野自然学園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
職員派遣事業	「幼保小連携なかよしキャンプ事業運營業務」 野外における異年齢集団でのグループ活動を通じ、「自主性」「期待感」「協調性」「責任感」を育むことを目的とした札幌市教育委員会からの受託事業。「公園での外遊び」をテーマに実施し、子どもたちが外で遊ぶ習慣づくりに繋げることができた。	日時：10月8日、9日 会場：川下公園 参加人数：38人(延べ)
体験機会創出事業	「サマーチャレンジ！日帰りカヌー体験」 こども育成課、こども事業課との連携事業として、コロナ禍では初となる児童会館向けカヌープログラムを実施した。モラップキャンプ場という非日常空間の中でカヌーという特別な遊びを体験し、子どもたちは「楽しさ」だけではなく「気づき」や「学び」を多く経験することができた。	日時：7月26日～29日 会場：支笏湖モラップキャンプ場 参加人数：121人(延べ)
	「冬のチャレンジキッズキャンプ」 豊かな感性を育み生きる力を育てることを目的に実施した。「仲間づくり」や「自然との直接的な関わりの中での挑戦」をテーマに、小学校低学年を対象に実施した。コロナ禍以降、初めてとなる1泊2日の宿泊プログラムとして、秘密基地づくりやキャンプファイヤー等を行い、集団生活における仲間の大切さや思い出を分かち合う喜びを伝えることができた。	日時：3月11日、12日 会場：滝野自然学園 参加人数：23人

滝野自然学園 利用集計 (延べ)

(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	0	115	224	694	812	419	590	105	14	546	330	70	3,919
団体数	0	8	9	13	19	10	12	4	1	12	9	2	99

前年度比 延べ人数：144.8% (前年度人数 2,707人)

団体数：126.9% (前年度団体数 78団体)



(7) 企画事業課【指定管理事業：北方自然教育園】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「出前精米事業」 体験農場で水田を行った小学校に訪問し、収穫した稲の脱穀や精米の工程を体験型で学べる出張授業を実施した。パネルやクイズ等を活用し、子どもたちは自分たちが育てた米が口に入るまでの過程を楽しんで学んだ。</p>	<p>日時：11月17日～ 12月14日 会場：市内小学校 参加人数：10校509人</p>
施設運営事業	<p>「北方スノーシュー 野鳥観察&amp;自然散策」 今年度より職員がガイドとして参加者に解説するプログラムを一部取り入れたところ、参加者からは大変好評であり、微増ではあるが昨年度に比べ参加者の増加に繋げることができた。</p>	<p>日時：1月14日～ 3月19日 会場：北方自然教育園 参加人数：6組14人</p>
	<p>「冬のいきものを探せ！HOPPO フレンズコレクション」 環境プラザとの連携事業として実施。動物の生態をテーマとしたレクリエーションゲームの他、スノーシューを履いて自然観察を行い、その中で出会った生き物等の絵を描きカードにするトレーディングカード作りを行った。</p>	<p>日時：2月19日 会場：北方自然教育園 参加人数：3組6人</p>
	<p>「北海道の川の世界～おうちの観察ポイントを学ぼう！～」 小学生を含む親子を対象に、北海道の自然環境の中で生息する川の生き物について学ぶ機会を提供した。実際に水槽の中の生き物を見たり触れたりしながら、その生態や飼い方等について学んだ。</p>	<p>日時：3月4日 会場：北方自然教育園 参加人数：6組15人</p>



(8) 野外活動課【指定管理事業：定山溪自然の村】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
体験機会創出事業	<p>「スペシャルニーズキャンプ」</p> <p>スペシャルニーズを有する特別支援学校や団体、家族、グループの自然体験学習を支援することを目的に実施した。宿泊活動とおした調理活動や入浴、就寝準備等の生活体験へのサポートをはじめ、利用団体のニーズに合わせたプログラムを展開した。</p>	<p>日時：7月1日、7月6～7日、7月12～13日、11月30日</p> <p>実施回数：2回（日帰り） 2回（1泊2日）</p> <p>会場：定山溪自然の村</p> <p>参加人数：62人（延べ）</p>
	<p>「定山溪ウィンター・キャンプ・フェスティバル」</p> <p>冬季の活動を主とした利用者の活動情報の共有や施設から体験活動の発信及び機会の提供を行い、定山溪自然の村の魅力や野外活動の楽しさを伝え、自然や野外活動に親しむきっかけを提供した。円山動物園との連携事業では、象の食べ残した木と象についての動画コンテンツを提供いただき、「HOT ひといき焚き火で知るゾウ!」と題して利用者及び YouTube にてプログラムを実施した。</p>	<p>日時：2月5日～3月12日</p> <p>会場：定山溪自然の村及びオンライン</p> <p>ホームページ特設会場閲覧数：1,729人</p> <p>体験プログラム利用者：155人（延べ）</p>
	<p>「Nature Village ニューキャンプスタイル事業」</p> <p>定山溪自然の村のフィールドを活かした新たな野外活動や自然体験活動として専門的な知識を持つゲストを招き、「定山溪の歴史スノーシューツアー」や「定山溪 Photo キャンプ」を実施した。また、職員による新たなキャンプの過ごし方や楽しみ方の提案を行った。</p>	<p>日時：2月26日～3月11日</p> <p>会場：定山溪自然の村</p> <p>参加人数：74人（延べ）</p>

札幌市定山溪自然の村利用状況

<利用件数> (件)

区分	令和4年度	令和3年度	前年度比
コテージ	1,625	1,288	126.2%
テントハウス	1,259	1,159	108.6%
テントサイト	2,412	2,348	102.7%
合計	5,296	4,795	110.4%

<利用人数> (人)

区分	令和4年度	令和3年度	前年度比
コテージ	5,677	4,481	126.7%
テントハウス	4,292	3,793	113.2%
テントサイト	3,607	3,640	99.1%
見学者	107	142	75.4%
合計	13,683	12,056	113.5%

(9) 野外活動課【指定管理事業：青少年山の家】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
青少年キャンプ事業	<p>「冬季札幌市林間学校（協力）」</p> <p>教育的な視点を重視したプログラムを集団で検証・実践するため、小学生を対象として楽しく心に残る非日常体験を支援し、自然体験活動の普及啓発を図ることを目的に実施した。児童の発達段階と山の家の周辺環境に合わせてプログラムを展開し、子どもたちは野外炊事やスノーシュー探検、スノークラフトを体験した。札幌市の教員で構成される野外活動教育研究会との協働により、双方の強みを活かした事業連携ができた結果、参加者からは「また参加したい」という声が多数寄せられた。</p>	<p>日時：12月26日、 1月7日、8日</p> <p>会場：青少年山の家</p> <p>参加人数：166人(延べ)</p>
	<p>「Re：滝野宿泊学習」</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大により、学校宿泊学習を体験できなかったり、体調不良に伴う欠席、満足な活動ができなかったりした子どもが相当数発生した状況を鑑み、「今度こそ、もう一度、滝野へ」をコンセプトに宿泊事業を実施した。参加者が主体性を持ち、興味関心に合わせたプログラムデザインを自分たちで行うことをテーマに展開し、野外炊事やスノーシュー、歩くスキーを経験した。非日常的なアクティビティをとおして冬の自然を満喫してもらうことができ、9割以上の高い満足度を得ることができた。</p>	<p>事前来館日：2月23日</p> <p>事業実施日：3月4日～5日</p> <p>会場：青少年山の家</p> <p>参加人数：61人</p>
生涯学習事業	<p>「地域交流事業」</p> <p>国営滝野すずらん丘陵公園イベント「たきの森フェス」に参画し、来園者を対象に薪割りやヒグマトランクキット、簡易工作といった自然遊びのブースを展開した。低年齢層の児童を中心とした家族参加者が多く訪れ、各年代の参加者に対して自然体験活動の機会を提供することができただけでなく、すずらん丘陵公園との関係構築にも重要な機会となった。</p>	<p>日時：2月26日</p> <p>会場：滝野すずらん丘陵公園</p> <p>参加人数：537人</p>



## 令和4年度 札幌市青少年山の家利用状況報告書

項目		合計		
		団体数	実利用者数	延利用者数
学校	幼稚園等 (4歳以上)	11	272	435
	小学校	322	23,613	38,345
	中学校	34	1,705	2,014
	高校	12	311	596
	盲聾養護学校	0	0	0
	専門学校	0	0	0
	大学	1	45	45
	その他の学校	4	96	107
青少年団体	少年団体	43	2,145	3,703
	青年団体	12	577	956
指導者団体	学校教育関係	1	2	2
	社会教育関係	4	45	55
親子		9	81	151
官公庁		14	369	369
その他		48	1,472	2,535
主催事業		79	3,723	3,859
計		594	34,456	53,172

団体数           (前年度     393 件           前年度比 151.1%)  
 実利用者数   (前年度 23,099 人       前年度比 149.2%)  
 延べ利用者数 (前年度 37,231 人       前年度比 142.8%)

(10) 市民参画課【指定管理事業：札幌エルプラザ公共4施設】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
<p>【男女共同参画センター】 ワーク・ライフ支援事業</p>	<p>「女性リーダー養成研修」 現場で実際に力を発揮する女性リーダーの育成と企業側のコミットメントを促すことを目的に全5回の連続研修として実施した。3年ぶりの対面実施となり、受講生や講師が一堂に会することで、活発な意見交換や交流を図ることができた。また、女性リーダーとしての知識やスキルの獲得だけではなく、業種を超えたネットワークの構築にも寄与することができた。</p>	<p>日時：10月21日～ 2月20日 計5回実施 会場： 札幌エルプラザ公共4施設 参加人数：140人（延べ）</p>
<p>【男女共同参画センター】 相談事業</p>	<p>「若年層のための相談事業」 昨年度までのSNSを活用した相談業務をとおして居場所支援の必要性が明らかになったことから、今年度は対面で相談や話ができる場として「Girl's Talk Room」を開催した。気軽に話ができるよう明るい雰囲気の中で実施をしたことで、悩みを相談するというハードルを下げ、雑談の中から友人関係や家庭環境の困り事を聞くことができた。参加した若年女性にとって、普段なかなか話すことのできていなかったモヤモヤを話せる場を提供できた他、対話を通じた気づきの場を提供できた。</p>	<p>日時：10月29日～ 3月24日 計11回実施 会場：Youth+、 札幌エルプラザ公共4施設 参加人数：18人</p>
<p>【市民活動サポートセンター】 NPOとの出会い創出事業</p>	<p>札幌市市民活動サポートセンター× 北海道NPO総合戦略共催企画 「ユース世代がソーシャルキャリアを考える」 社会貢献や市民活動等に関心を持つ若年層世代がロールモデル人材や同世代の仲間と対話し、相互に研鑽し合える関係性を構築することを目的に実施した。ロールモデルによるキャリアトークや、「自分のソーシャルキャリアを考える」と題したワークショップ、交流会の実施によりセンター単独ではアプローチの難しかった層との繋がりを新たに作る事ができた。</p>	<p>日時：3月10日 会場：札幌市市民活動 サポートセンター 参加人数：27人</p>
<p>【環境プラザ】 普及啓発事業</p>	<p>「楽しくはじめるプラスチックダイエット」 生活を環境問題の視点で見つめ直し、環境負荷の少ない選択肢を取り入れるきっかけを提供することを目的に、プラスチックを中心とした環境問題の現状や、生活の中で取り組むことができるプラスチックダイエットに関する講演会を実施した。プラスチックに依存しない生活を提案する市内の雑貨店オーナーを講師に招いたことで、参加者からは馴染み難いテーマの事業へ抵抗感なく参加できたという声が寄せられた。環境負荷の少ない選択肢が参加者の生活に取り入れられることが期待できる事業となった。</p>	<p>日時：3月11日 会場： 札幌エルプラザ公共4施設 参加人数：13人</p>
<p>【情報センター】 情報コンシェルジュ事業</p>	<p>「情報コンシェルジュ事業」 情報センターの利活用に繋げることを目的に実施。インターネットの普及により読書離れや書店の閉店が相次ぐなか、「一万円選書」を手段として本を幅広い世代の読者に届ける新しい形態を確立した講師の方を迎えた。14,000件の選書をとおして見えてくる現代の課題をお話いただき、応募者にはネットではない、本そのものの良さを知っていただく機会を提供できた。</p>	<p>日時：3月5日 会場：札幌エルプラザ 情報センター 参加人数：28人</p>

	男女共同参画センター	消費者センター※	市民活動サポートセンター	環境プラザ	公共4施設計	情報センター	令和4年度総利用者数
施設利用	202,376	19,008	31,975	16,659	270,018	-	270,018
相談事業	152	9,653	612	56	10,473	-	10,473
観察・見学	13	0	86	417	516	-	516
展示コーナー	-	-	-	21,587	21,587	-	21,587
総合学習	-	-	-	591	591	-	591
施設外事業	1,698	-	145	34,920	36,763	-	36,763
計	204,239	28,661	32,818	74,230	339,948	95,484	435,432

※消費者センター施設利用、相談事業件数に関しては消費者協会分を含む

【令和3年度】

- ※施設利用 …184,638人 (前年度比 146.2%)
- ※相談事業 … 10,147人 (前年度比 103.2%)
- ※観察・見学 … 190人 (前年度比 271.6%)
- ※展示コーナー … 9,171人 (前年度比 235.4%)
- ※総合学習 … 47人 (前年度比1,257.4%)
- ※施設外学習 … 15,697人 (前年度比 234.2%)
- ※総利用者 …256,958人 (前年度比 169.5%)





(11) 企画事業課【地域活動等事業：自主事業・受託事業】

事業区分	事業内容	時期・回数・参加人数等
企画提案事業	<p>「市制 100 周年記念さっぽろ水道フェスタ 2022」  <b>企画運営等業務</b>            一般財団法人さっぽろ水道サービス協会からの受託事業として、夏休み期間の約 2 週間、館内デジタルアトラクションの設置及び運営と緑日コーナーの企画運営を行った。自分で描いた魚の絵をスキャナーで読み込み、プロジェクターで投影し、「水の中」で泳がせるデジタルコンテンツの物品調達や、プラバン工作、スマートボール等を楽しめるコーナーを運営した。</p>	<p>日時：8 月 6 日～8 月 19 日            (8 月 8 日、8 月 15 日除く)            会場：札幌市水道記念館            参加人数：5,638 人</p>
受託事業	<p><b>水道記念館「ウォッピー工作会」運営業務</b>            一般財団法人さっぽろ水道サービス協会主催事業の全体進行及び材料調達に係る業務を受託した。水道事業の周知普及を目的とした本事業では札幌市水道局の公式キャラクター「ウォッピー」をモチーフとした 5 種類の工作を行った。</p>	<p>日時：10 月・11 月            計 10 回実施            会場：札幌市水道記念館            参加人数：388 人(延べ)</p>
	<p>『令和 4 年度「児童会館を活用した東区多世代交流事業」  <b>企画・運営等業務</b>』            東区地域振興課より受託し東区児童会館との連携事業として実施した。北光児童会館を会場に「ホッケーキープ」という札幌大谷大学と杉原建設株式会社が共同制作した、東区を学ぶことのできるカードゲームの大会を開催した。さらに、よしもと芸人によるお笑いステージを実施、東区についての学びと地域住民の世代を超えた交流の場を提供した。</p>	<p>日時：11 月 12 日            会場：北光児童会館            参加人数：38 人</p>
	<p>「第 73 回さっぽろ雪まつり 4 丁目  <b>STV 広場サテライト会場スノーパーク等制作業務</b>」            札幌テレビ放送株式会社より依頼を受け雪像の制作を行った。また、会場では、今季さっぽろ雪まつりでは実施が見送られていた「飲食ブース」やファミリーで楽しめる「体験型」コンテンツを実施することができた。これまでの雪像制作のノウハウや実績を活かした体験型会場とすることができた。</p>	<p>日時：2 月 5 日～11 日            制作期間：1 月 21 日～            2 月 5 日            会場：            三井アウトレットパーク            屋外駐車場</p>
<p>「ハツキタ防災デイキャンプ」<b>企画運営業務</b>            発寒北まちづくりセンターから依頼を受け実施した。滝野自然学園を会場に薪割り体験や火おこし体験の他に、ビニール袋に米と水を入れ、縛って鍋に入れて米を炊く防災炊事を行った。さらに滝野自然学園の豊かな自然環境を体感していただくために、裏山でチューブすべり体験を実施した。</p>	<p>日時：2 月 25 日            会場：滝野自然学園            参加人数：19 人</p>	

## 6. 重要な契約に関する事業

### (1) 地域活動等事業

(千円)

契約の概要(業務名)	相手方	契約金額
札幌まなびのサポート事業	札幌市長	54,998
地域若者サポートステーション事業	北海道労働局総務部長	49,014
子どものくらし支援コーディネート事業	札幌市長	27,060
ヤングケアラー交流サロン運営業務	札幌市長	998

### (2) 指定管理事業

(千円)

契約の概要(業務名)	相手方	契約金額
札幌市児童会館及び札幌市こども人形劇場管理業務	札幌市長	3,945,918
札幌エルプラザ公共4施設管理業務	札幌市長	260,319
札幌市若者支援施設管理業務	札幌市長	174,815
札幌市青少年山の家管理業務	札幌市教育委員会教育長	132,303
札幌市定山溪自然の村管理業務	札幌市教育委員会教育長	76,415
札幌市こどもの劇場やまびこ座管理業務	札幌市長	47,510
札幌市栄西小はんのき児童会館管理業務	札幌市長	31,645
札幌市羊丘児童会館管理業務	札幌市長	31,645
札幌市北方自然教育園管理業務	札幌市教育委員会教育長	30,438
札幌市発寒南さくら児童会館管理業務	札幌市長	25,540
千歳市青少年会館管理業務	千歳市長	4,689

### (3) 受託事業

(千円)

契約の概要(業務名)	相手方	契約金額
札幌市ミニ児童会館管理運営業務	札幌市長	2,206,509
千歳市児童館・学童クラブ運営業務	千歳市長	393,648

## 7. 基金事業

### (1) こども基金「さっぽろスマイルキッズ」助成事業 協力者一覧

寄付金総額 434,535 円 全 26 件

【団体】 8 件 (円)

寄付者氏名	寄付額
やまびこ座 読み語りの会	10,000
北郷親栄第6町内会	5,000
北白石連合町内会	5,000
北郷親栄第7町内会	5,000
北白石地区民生委員児童委員協議会	5,000
匿名希望	15,500
合計	45,500

【法人】 4 件 (円)

寄付者氏名	寄付額
道民防災コンサルタント株式会社	50,000
北海道コカ・コーラボトリング株式会社	15,735
大和証券株式会社 札幌支店	100,000
株式会社 館野オフィスサービス	50,000
合計	215,735

【個人】 14 件 (円)

寄付者氏名	寄付額
個人寄付者	173,300
合計	173,300

## &lt;滝野自然学園活用型事業&gt;

(円)

事業名	実施団体	助成金額
2022 滝野さとやま探検隊 =さとやまは、楽しくておいしい=	特定非営利活動法人 ネイチャープログラムデザイン	189,096

## &lt;学生チャレンジ事業&gt;

(円)

事業名	実施団体	助成金額
サタデースクール	サタデースクール	31,319

## &lt;一般活動事業&gt;

(円)

事業名	実施団体	助成金額
～ちいさなひとのためのオペラ～スイミー	accie (アッチェ)	200,000
クリスマスのふしぎなはこ	スタジオティンクナ	200,000
妊娠期からの切れ目ない幸せな子育てのための アタッチメント講座	NPO 北海道ネウボラ	166,118



「クリスマスのふしぎなはこ」



「サタデースクール」



「～ちいさなひとのためのオペラ～スイミー」

(3) こども若者応援基金「さっぽろユースチャレンジ」事業 協力者一覧

寄付金総額 2,218,000円 全47件

【法人】 4件 (円)

【個人】 43件 (円)

寄付者氏名	寄付額
大和証券株式会社 札幌支店	100,000
北海道行政書士会 札幌支部	50,000
保育園ペンタゴン	6,000
法人寄付者	1,500,000
合計	1,656,000

寄付者氏名	寄付額
個人寄付者	562,000
合計	562,000

子ども・若者の居場所「いとこんち」事業の様子

札幌市立中島中学校区内にある民泊施設を活用し、おおむね13歳から19歳の子ども・若者を対象に、週3日程度、勉強や食事、料理、入浴等の日常生活を送り、社会的自立を目指す家庭生活体験の場を提供した。



●利用実績 ※サテライト実績含む

開所日数	本人	家族	支援者	来室者計
287日	延べ676人	延べ126人	延べ322人	延べ1,124人

●相談利用登録者数

小学生未満	小学生	中学生	15～19歳	20代	登録者計
14人	7人	9人	44人	41人	115人

●実施したイベント

野球観戦、コンサート鑑賞、田植え・稲刈り、誕生会、  
バーベキュー・花火大会観覧、地域向け事業報告会、クリスマスパーティー、卒業パーティー 他

## IV. 事務報告

1. 設立年月日 : 昭和 55 年 4 月 1 日

### 2. 定款に定める目的

この法人は、人とのつながりを通じて青少年の健全育成と青少年女性の社会参加を促進し、魅力あふれる地域社会創造のための主体的な活動を支援することにより、地域社会の発展及び向上を図り、もって豊かな生活の実現に寄与することを目的とする。

### 3. 定款に定める事業内容

- (1) 青少年の健全育成と社会参加に関する事業
- (2) 社会教育の推進に関する事業
- (3) 市民活動の振興に関する事業
- (4) その他法人の目的を達成するために必要な事業

### 4. 事務所の状況

主たる事務所 : 札幌市西区宮の沢 1 条 1 丁目 1 番 10 号

従たる事務所 : 札幌市中央区南 4 条西 6 丁目 8 番 3 号晴ればれビル 10 階

### 5. 役員等に関する事項

#### (1) 理事

理事長	野崎清史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 理事長
専務理事	森有史	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 専務理事
理事	相馬宏哉	NPO法人ネイチャープログラムデザイン 理事長
理事	菊地秀一	(一社)札幌市私立保育連盟 会長
理事	藪淳一	(一社)札幌市私立幼稚園連合会 会長
理事	生出裕一	(公財)さっぽろ青少年女性活動協会 事務局長

#### (2) 監事

監事	西田史明	札幌商工会議所 理事・事務局長
監事	梅津太	税理士

[令和 5 年 3 月 31 日現在 計 8 人]

令和4年度における理事会は、次のとおり4回開催した。

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和4年 6月8日	【第37回理事会】 1「令和3年度事業報告及び附属明細書の承認」の件 2「令和3年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録の承認」の件 3「定時評議員会の日時並びに目的である事項」の件	1 可決 2 可決 3 可決
令和4年 6月23日	【第38回理事会】 1「理事長、専務理事の選定」の件 2「役員報酬月額決定」の件 3「令和4年度予算の変更」の件	1 可決 2 可決 3 可決
令和4年 11月4日	【第39回理事会】 1「職務執行状況報告」の件 2「その他報告」の件	1 報告 2 報告
令和5年 3月8日	【第40回理事会】 1「職務執行状況報告」の件 2「令和4年度予算の変更」の件 3「特定費用準備資金の設定」の件 4「令和5年度事業計画書及び収支予算書等の承認」の件 5「役員賠償責任保険の契約更新」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決 5 可決

(3) 評議員

評議員	梶井祥子	札幌大谷大学 教授
評議員	菊池恒	札幌市商店街振興組合連合会 理事相談役
評議員	柴田千尋	(公財)北海道青少年育成協会 専務理事兼事務局長
評議員	西田充潔	北星学園大学 教授
評議員	秦直樹	社会福祉法人常德会 理事長
評議員	林美枝子	日本医療大学 教授
評議員	村形亜佐美	札幌市PTA協議会 副会長
評議員	箭原恭子	(公社)札幌市母子寡婦福祉連合会 理事長

[令和5年3月31日現在 計8人]

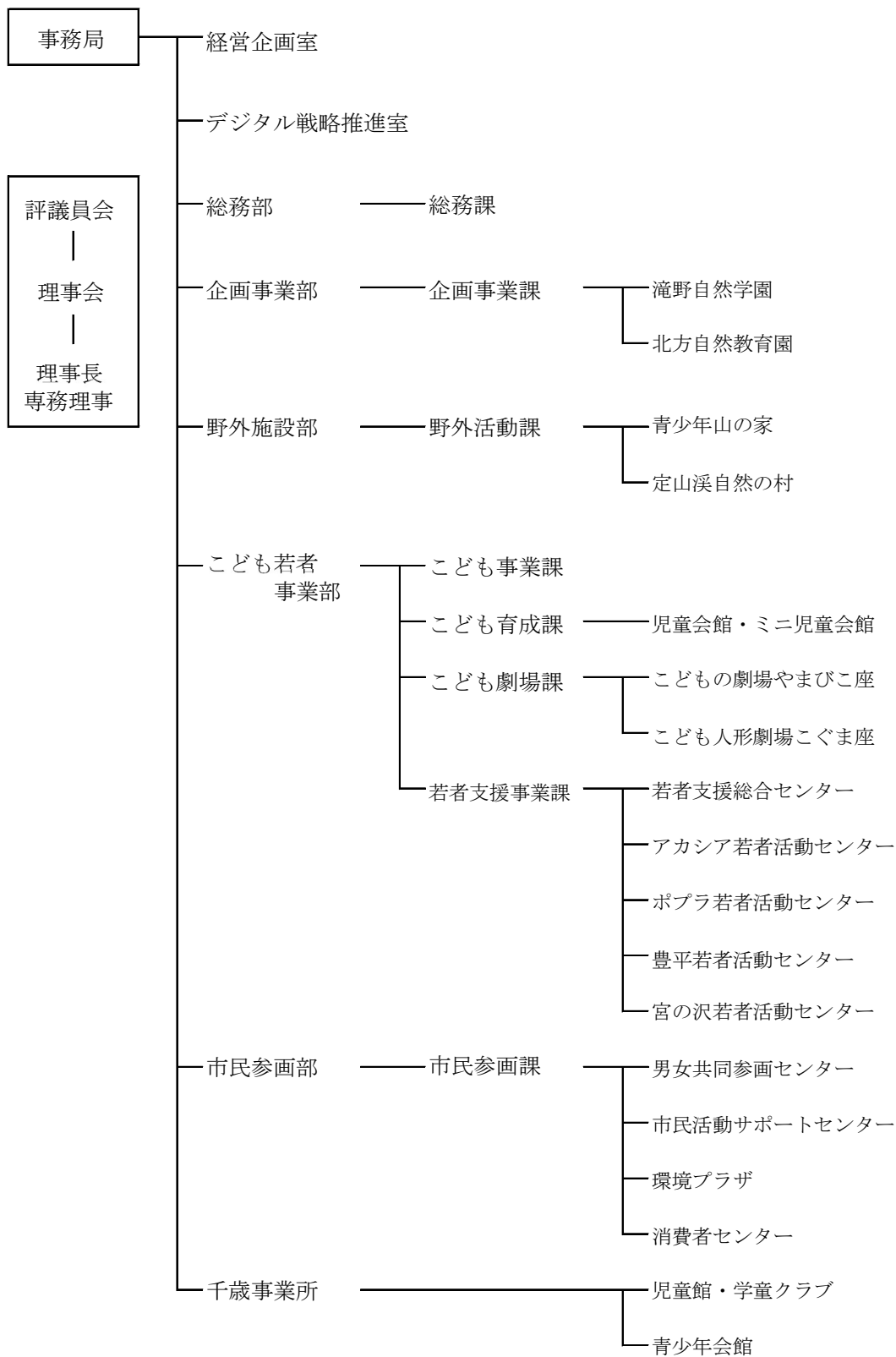
令和4年度における評議員会は、次のとおり1回開催した。

開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
令和4年 6月23日	【第11回評議員会】 1「令和3年度事業報告及び附属明細書」の件 2「令和3年度計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及び附属明細書並びに財産目録等の承認」の件 3「理事の選任」の件 4「評議員の選任」の件	1 報告 2 可決 3 可決 4 可決

## 6. 職員に関する事項（令和4年度末現在）

令和5年3月31日現在における事務局組織は次のとおりである。

公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会 機構図



## (1) 主要な職員

役職名	氏名	採用年月日	担当職務
事務局長	生出 裕一	平成元年 6 月 19 日	財団運営業務の総括
経営企画室長	佐々木 勝敏	平成 12 年 4 月 1 日	経営企画室業務の総括
総務部長	岡本 峰子	昭和 61 年 4 月 1 日	総務部業務の総括
野外施設部長	石井 一彦	昭和 63 年 4 月 1 日	企画事業部・野外施設部業務の総括
こども若者事業部長	五十嵐 健二	平成元年 4 月 1 日	こども若者事業部業務の総括
こども若者支援担当部長	松田 考	平成 13 年 1 月 1 日	こども若者支援事業業務の総括
こども育成担当部長	会田 彰仁	平成 4 年 2 月 1 日	こども育成部門業務の総括
こども育成担当部長	矢吹 英孝	平成 3 年 4 月 1 日	こども育成部門業務の総括
市民参画部長	下川原 清貴	昭和 63 年 12 月 14 日	市民参画部業務の総括
経営企画室課長	土井 聖子	平成 12 年 4 月 1 日	経営企画室業務の総括
総務課長	加藤 孝	平成 12 年 4 月 1 日	総務・財務・経理等の総括
人事担当課長	佐々木 初美	平成 15 年 4 月 1 日	人事・労務等の総括
企画事業課長	小林 剛至	平成 12 年 8 月 1 日	企画事業課業務の総括
野外活動課長	大場 睦彦	昭和 62 年 4 月 1 日	青少年山の家の総括
定山溪自然の村担当課長	志賀 和行	昭和 63 年 2 月 1 日	定山溪自然の村の総括
こども事業課長	森口 雅和	平成 11 年 10 月 1 日	こども事業課業務の総括
管理担当課長	野坂 真英	平成 11 年 1 月 1 日	児童会館管理に関する総括
こども育成課長	山田 憲克	平成 10 年 4 月 1 日	育成課調整に関する総括
児童会館担当課長	高橋 雅裕	平成 8 年 5 月 1 日	児童会館（厚別・清田・白石担当）
児童会館担当課長	蓮井 潤子	平成 4 年 4 月 1 日	児童会館（中央・南・手稲担当）
児童会館担当課長	長谷川 美千代	平成 11 年 6 月 1 日	児童会館（東・豊平担当）
児童会館担当課長	山田 弓人	平成 8 年 12 月 1 日	児童会館（北・西担当）
こども劇場課長	山田 啓貴	平成 11 年 4 月 1 日	こども劇場課業務の総括
若者支援事業課長	大水 千広	平成 12 年 4 月 1 日	こども若者支援事業業務の総括
市民参画課長	高坂 美江	平成 12 年 4 月 1 日	エルプラザ公共 4 施設業務の総括
市民活動担当課長	芥藤 美季	平成 5 年 6 月 1 日	市民活動に関する調整
千歳事業所課長	古野 由美子	平成 11 年 6 月 1 日	千歳事業所の総括

## (2) 職員数

(令和 5 年 3 月 31 日現在)

事務局長職	1 人	主任パートスタッフ	252 人
総合職	560 人	サポートスタッフ	41 人
児童指導員	203 人	再任用職員	27 人
専門指導員	35 人	臨時職員	74 人
職場限定職員	16 人	パートタイム職員	1,083 人
<b>合計</b>			<b>2,292 人</b>
内常勤職員数	1,108 人	内非常勤職員数	1,184 人

## 7. 会計に関する事項

公認会計士の関与の有無

監査契約締結（「独立監査人の監査報告書」：令和 5 年 5 月 25 日）







SYAA

公益財団法人 さっぽろ青少年女性活動協会